

○近江（滋賀県）

古来、「近江を（美濃も）制するものは天下を制す」といわれ、都の東に位置し、琵琶湖という水運の大動脈を有する滋賀県から。なお大津は以前触れたことがあるので今回は省く。まず堅田といえ、浮御堂であるが、「病む雁の夜寒に落ちて旅寝かな」（芭蕉）が忘れがたい。その北の高島の大溝城址は、戦国浅井三姉妹のまん中の女（数年前の大河ドラマでは、水川あさみ）がいた城である。今は湖東のほうか、はるかに人の行き来は多いが、古・昔は北陸へは湖西を通ったようで、古くは万葉に歌われ、紫式部も湖西を通して、越前武生（国府）へ行

った。そして琵琶湖の北に浮かび、謡曲で名高い、国宝がある竹生島へは、長浜か今津から船で行く。今津駅と港はすぐ近く、その間に琵琶湖周航の歌資料館（無料）がある。作詩者、作曲者とも天折の三高の若者であった。竹生島の東の湖北では、柴田勝家と羽柴秀吉が対決した賤ヶ岳の七本槍の話や、余呉湖、東映映画で、田坂具隆監督、佐久間良子主演、水上勉原作「湖の琴」の舞台の地も忘れがたい。その北は福井県で、万葉に登場する敦賀がある。敦賀の金ヶ崎は太平記にも出てくるが、朝倉攻めの信長が、浅井の裏切りにあつて、何とか京へ逃げ帰った地である。西の小浜は、鉄幹、晶子のために自ら身をひいた、天折の歌人山川登美子の故

車で巡る

近畿古典史跡めぐり

—近江、伊勢、紀伊—

前 兵庫県立川西北陵高等学校

小田剛

郷であり、浅井三姉妹の淀、初、江の初、の夫・京極高次の城下町でもあった。さらに湖北は、浅井、朝倉軍対信長、家康軍の姉川の古戦場、小谷城跡、鉄砲の国友村と、歴史には事欠かない。

彦根は、NHKの第一回の大河ドラマ「花の生涯」の井伊大老よりも、彦根藩士で芭蕉の門人である森川許六が思い浮かび、歌人塚本邦雄は彦根高商の出身である。彦根のま横にある佐和山城（跡）は、三成に過ぎたるものとして、島左近と並称されている。その石田三成は、京都六条河原で処刑され、墓は大徳寺にある。同じく三成で名高い関ヶ原は、ほぼ彦根のま東にあり、壬申の乱、新古今歌人良経の詠、それをもとにした芭蕉の句が想起されるが、省いて大

垣について触れよう。関ヶ原の戦いで、大垣城が出てくるが、大垣は芭蕉の「奥の細道」のラスト、「はまぐりのふたみにわかれゆく秋ぞ」の句の地である。このように近江（周辺）は、芭蕉とゆかりが深い。芭蕉の故郷の伊賀上野は、近江のま南である。関ヶ原のほぼ北にそびえる伊吹山は、百人一首の他、古事記において、ヤマトタケルがひどい目にあい、それがもとでやがて死んでゆく地であった。

湖東では、何といつても織田信長の安土城である。南・安土城、北・長浜城（秀吉）、西・坂本城（光秀）と、このトライアングルが、近江支配、全国支配の中核であり、重要な役割を荷ったのではない。京都と北国、東国を結びつける大動脈として、琵琶湖の水運が必須のものではないか。

さらに湖東をめぐる、近江商人の町、近江八幡（八幡堀）が有名で、時代劇のロケには必ず出てくる。この町は豊臣秀次の城下町であった。近くの八日市の蒲生野は、あの額田王と大海人皇子（後の天武天皇）との、「あかねさす……」「紫のにはへる……」の唱和で有名であるが、演技だという説もある。信楽は狸の陶器で有名であるが、信楽宮もあり、また歌枕（歌の名所）でもあった。

○伊勢（三重県）

「伊勢は津でもつ、尾張名古屋は城でもつ」

といわれた三重県を北よりめぐろう。まず「その手は桑名の焼きはまぐり」といわれた桑名は東海道の宿駅であり、ここから次へは伊勢湾を船で渡った。その南の四日市は、丹羽文雄（寺の生まれ）、鈴鹿市は、佐佐木信綱（生家は記念館となっている）で有名であるが、古い街道が今なお残っている関も忘れたい。津は、県のほぼ中央に位置し、阿漕ヶ浦もある。例の「あ、こぎなことをする」のそれである。さらに伊勢湾にそって下ると、そこは松阪である。市内には、「宣長旧宅跡」「本居神社」「鈴の屋」「本居宣長記念館」「宣長奥墓」と多数ある。宣

長という、「松阪の一夜」が想起され、賀茂真淵と古事記について話し合ったというが、もう一つ中心は源氏物語についてだという人（大野晋）もいる。また梶井基次郎の「城のある町にて」も忘れたい。松阪が蒲生氏郷の城下町であり、伊勢商人の地でもあった。

狭義の「伊勢」へ行こう。松阪の先、近鉄「斎宮」駅の前に、賀茂の斎院、伊勢の斎宮と対比される斎宮歴史博物館がある。そして伊勢神宮の外宮、内宮のうち、五十鈴川の流れている内宮のほうが趣深い。近くによい本をもっている神宮文庫もある。夫婦岩で有名な二見浦も近い。西行が定家によませた二見浦百首のうち、新古今の「見渡せば花も紅葉もなかりけり…」は定家25歳の時の傑作で、源氏物語をふまえている。さらに西行は自己の自信作を歌合

形式にして、俊成、定家父子に御裳濯河歌合、宮河歌合として判をさせた。そして鳥羽や賢島のある志摩はさして古典と関係がないが、「鷹一つ見つけてうれしいらご崎」の伊良湖岬の手前の神島は、三島由紀夫の「潮騒」の舞台で、吉永小百合、山口百恵ら、青春映画として、人気新人女優が主演する定番となっている。さらに尾鷲や熊野（鬼ヶ城）もある。

○紀伊（和歌山県）

北から。まずは高野山の北麓九度山町には、地獄の三途の川の渡し賃・六文銭の真田の父子、真田昌幸、信繁（幸村）が隠棲した遺跡がある。義経、正成と共に、幸村は判官びいきの日本人に人気が高く、源三位頼政と同様、武士として最期の一花を咲かせたといえよう。そして高野山は空海、西行の外、上田秋成の雨月物語の「仏法僧」に出てくる、関白秀次が秀吉によって切腹させられた地でもある。一族は三条河原で処刑され、墓は三条木屋町の瑞泉寺にある。

和歌山市の近くに、有吉佐和子の「華岡青洲の妻」で、にわかに有名になった華岡家がある。市川雷蔵、若尾文子、高峰秀子の大映映画が思い出される。徳川御三家の一つ紀州公・暴れん坊將軍で知られるようになった吉宗も、和歌山市にある城の主である。紀伊国屋文左衛門のみかんの話もあるが、この和歌山という所は、当然ながら紀州の海にまつわる話が数限りない。

和歌の浦は、赤人の「わかの浦に…」であまりにも有名であるが、海南市近くの藤白は、有間皇子の「家があれば箭にもる飯を…」の歌の地で、皇子はここで絞殺された。さらに南へ行く、醤油で有名な湯浅があるが、小林秀雄の「私の人生観」にも出てくる明恵上人の島がある。さらに御坊市の道成寺は、安珍・清姫で知られている。そして印南の近くの岩代は、有間皇子の「磐代の浜松が枝を引き結び…」の歌の地である。

また田辺市は、弁慶で名高いが、あの南方熊楠が久しく住み、永眠した地でもある。田辺から入る熊野古道は、後白河、後鳥羽上皇たちが、熊野御幸として通った道である。さらに串本には、京都四条派の円山応挙の絵のある無量寺がある。那智には竜のふんどしのような那智の滝があるが、それよりも補陀落渡海の出発地として知られ、そこより沖の彼方の補陀落山を目指した地なのだ。さらに新宮の大石誠之助（内蔵助ではない）は、大逆事件によって殺された。佐藤春夫に「大石誠之助は殺されたり」という一節がある。そのように新宮と切っても切れない文学者が「秋刀魚の歌」の佐藤春夫である。またここ新宮は、秦の始皇帝が不死の薬を求めて出発させた徐福が、たどりついた地ともされている。